

どんでん返しの福音(ルカ 6:20-26)

聖書はとても分厚い書物です。しかし、聖書の核心の内容は、どんな内容なのかを正しく理解して聖書を見ますと、ひとつひとつが私たちに力となり、またいのちの働きが行われるようになります。聖書は、特に旧約の聖書は、神様を離れた人間に幸せなどは絶対ありえないということを証明している内容です。歴史を通して具体的に、特にイスラエルという国を通してそのことを証明している歴史の記録です。だから、最初から約束されたキリストが来なければ希望などはない。キリストが来られることだけに希望があります、ということを旧約の聖書は私たちに教えています。そしてし新約の聖書は、その唯一の希望であるキリストが実際に世に来られた。そして十字架で死なれてよみがえられた、イエス様こそそのキリストであるということを証明して知らせている喜びのお知らせであります。それが新約の聖書なのです。なので、この聖書を信じる私たちは、自分で勝手に判断したり、自分の考えや思いに流されることなく、常にイエスがキリストならば、キリストが来られたのであればという問い合わせをもってすべてにアプローチしなければいけないし、そのようにアプローチした時にすべてが変わらるようになります。今日の聖書の箇所には、イエス様がかわいそうな哀れな人と普通に思われる人々に、それがむしろ幸いなんだと。そしていま幸いだと勝手に思い込んでいる人々に対して、それは哀れなことなんだとどんでん返しのお話をしているおっしゃるのです。たぶん、普通の感覚、常識ではなかなか理解できないかもしれません。受け入れ難いかかもしれません。しかし、冒頭で申し上げましたように、イエスがキリストならば、つまり唯一の希望キリストが来られたことが間違いなければ話は変わるわけです。そのことをまず礼拝を捧げているクリスチャンの私たちが正しく理解して、何が幸いで何が哀れなのかに対して、もうこれから揺れることがないよう明確に釘を刺す必要があると思います。

1. 今までの哀れが幸いに変わる。

まず第一に、イエスやキリストならば、キリストが来られたことが間違いなければ、今までの哀れは幸いに変わります。

そのことをぜひ覚えて、また皆さん自分自身でそれを味わうようにしていただきたいと思います。イエス様がおっしゃいました。

1) 貧困、飢え、疎外…

貧しい者、貧困というのは普通に哀れと思われます。また飢えている人、食べ物に困っていること、生活がギリギリできつい。それで万引きもしたり泥棒もしたり、密輸の仕事に加担したり、犯罪に手を染めたりいろいろなことがあります。だから哀れというのは普通の思いだと思います。しかし、その飢えている者が幸いだとおっしゃっているのです。また、信仰によって迫害されて、つまり人から捨てられることがあり、嫌われることがあり、阻害されることがあるということはなかなか耐えがたいものではないでしょうか。特に日本人は和を大切にする民族なので、仲間はずれになることは死ぬことより怖いかもしれません。真理がどうであれ私は仲間はずれになることだけは避けたいという思いが日本人の内側には流れているかもしれません。そのように阻害されること、見放されるようなこと、それが幸いだとイエス様おっしゃっています。なぜなのでしょうか。

2) 人生への悟り

もう一度言います。普通に考えてはいけません。皆さんの過去も今現在のさまざまな悩み事、状況なども普通に皆さんの思いのまま、皆さんの水準で考えてはいけません。イエスがキリストならば、キリストが来られたことが間違いなければ、そのような哀れなことが実は人生はどんなものなののかを悟るための絶好的の材料なのです。それ自体が幸せではありません。しかし、その貧困、飢え、いじめられ阻害されてしまった寂しい思い等々を通して、なるほど人生というものは美しいものではない。人生というものは幸せなものではない。人生というものは頑張れば希望が見えてくるような、そういうものではない。人生というのは不幸なものであり、悲しみであり、労苦であり、重荷を背負うものであり、疲れるものであり、だか

ら人生に希望などはない絶望的なものだということを悟るための絶好の材料なのです。

3) イエスがキリストなら(来られたなら)

イエスがキリストならば、キリストが来られたことに間違ひなければ、イエスがキリスト、キリストが世に来られたということはどういうことなのでしょうか。キリストが来られなければいけない理由というものが明らかになったということでしょう。人間が人生が不幸になるしかない、その理由が明らかに知らされるようになったということがキリストが来られたということです。そうでなければキリストはこの世に来られる理由などありません。神ご自身であるキリストが、罪のない御子キリストが人間としてこの世に来られる理由が一体どこにあるのでしょうか。

①根本の原因

その根本の原因、誰も分かつてないし、どこに行っても教えてもらえない、その不幸になるしかない根本の原因、それが明らかに示されるものなのです。人は神によって造られたのに、その神様を離れることで、人間は罪と悪魔サタンの奴隸となり、地獄の運命を抱えて生きる存在になってしまいました。人のうわべと関係なく、すべての人は罪を犯したので、神からの栄養を受けることができない。肉体的な、また環境的な条件はいろいろ違うかもしれません。しかし、根本的にみな同じなのです。

②唯一の答えキリスト

それが明らかになったので、人間に、この人生に唯一の希望、唯一の答えはキリストの他にはありません。それが明らかになりました。悪魔のしわざを打ち壊して勝利なさる真の王様であるキリスト、私たちの罪を完璧に贖ってきよめられる祭司であるキリスト、私たちはまた神様と一緒になるようにインマヌエルとなられる預言者のキリスト。そのキリストの他には希望、幸せなどは考えられません。まったくあり得ないものだということが、キリストが来られたことによって明らかになったのではないでしょうか。

③イエスはキリスト

そして、イエス様がそのキリストなのです。キリストが実際に来られました。そのことに目が開かれるようになります。今まで哀れだと思われていた貧困、飢え、寂しさ、さまざまな悩み事、精神的なトラブル、人にいじめられ、あるいは嫌われていたさまざまな哀れのことを通して人生は何なのかということに気づいて、キリストの他には希望はない。だからキリストが来られたし、来られなければいけなかつたし、イエスがそのキリストなんだね。私にキリストが必要です。私はそのキリストと出会うために人生を生きてきたんだ。さまざまな哀れなことはそのためにあったんだということに気づくようになります。

④福音と私のマッチング

つまり、イエス・キリストのいのちの福音と私と一致されてマッチングされることになります。それを幸いと言います。

⑤受け入れ

だから素直に心を開いてイエス様をキリストとして受け入れることになります。今まで哀れだと思っていたことのゆえに人生が何かに気づいて、キリストの他に希望がないことに気づいて、イエスがそのキリストであることを心から喜んで、躊躇せずに何にも邪魔されずに迷わず伊エス・キリストに飛び込むようになります。これが幸いです。だから幸いとおっしゃっているわけです。キリストが来られたのであれば、イエスがキリストならば、今まで哀れと思われていたそれこそが幸いなんだ。もちろん貧困と飢えで悩み苦しみ哀れな人生を送っていた人がこのような真理に気づかないで、それを無視すればそれは幸いではありません。だから、貧しいこと自体が幸いではありません。寂しい思いをして、親から虐待されて、親が自分を捨ててどこかに逃げてしまった。それが幸いではありません。そのまま哀れなことでしょう。しかし、キリストが来られたから。イエスがキリストに間違ひなければそれは幸いなのです。人生の不幸に気づいて、どうにもならない人生の根本的な靈的な問題に気づいて、イエス・キリストに飛び込む最高の材料になったので幸いなのです。何が幸いなのでしょうか。裕福になれば幸いでしようか。それは人間の靈的な事実、人の本当の実態、真相などが分かっていないから勝手に喋ることなのです。何が幸いなの

でしょうか。その滅びの運命から解放されて、キリスト・イエスに飛び込み救われることこそが幸いなものなのです。

4) 天の御国、神の愛、報い

イエス様はおっしゃっています。貧しい者は、イエス・キリストを信じて飛び込むので、天の御国がその人のものになるんだと。幸いなのです。飢えている者は、神の愛と御座の祝福に満腹になるんだよと。だから幸いなんだと。迫害されて憎まれていた者は、信仰によっていじめられてた人であれば、天の御国において報いが大きいからとおっしゃっているわけです。そのような人生に、そのような人に変えられることになります。イエス・キリストを信じて受け入れれば。もし神様の恵みによって、さまざまなきっかけによってイエス・キリストを受け入れたのにまだ自分がこの世で幸いだということが分かっていない方は安心してください。だから礼拝が許されているのです。お話をちゃんと聞いて、自分の思いを捨てて神のみことばにアーメンすればいいのです。今まで私たちはこうなれば幸い、あれは不幸と勝手に思って、しかもそれは誰かによって洗脳されている内容なのです。それを基準にして、それを物差しにしているので、いつもそれに引っかかって悩んだりフラフラしたり憎んだり落ち込んだりしていたのではないですか。その基準が全部崩れ落ちて新しく立て直さなければいけません。今までの哀れは幸いになります。イエスがキリストに間違いなければ。

2. 今までの幸いが哀れに変わる。

逆に申し上げると、イエスがキリストに間違いなければ、今までの幸いは哀れに変わります。

1) 富、食べ飽き、笑う、褒められ

普通、イエス様もおっしゃっているように富をもって裕福に生活してる者、お金に困ってない人を幸いと普通に思います。食べ物に困らないで、むしろ聖書の表現によりますと、食べ飽きている人は幸いだ。おいしいもの、いつも選んで食べることができ、有名なミシュランの五つ星レストランをいつも選んで食べることができるとなると幸い。ブランド品がいつも買える。自分が欲しいものが買えるとなると幸いと思うわけです。自分でも周りもそのように思います。いつも笑うことばかりあることが幸いだと思っているし、だからお笑い芸人が成り立っているわけです。人に褒められること、それは悪いことではありません。でも、それが本当に幸いなのでしょうか。私たちはそのようなうわべを見て、幸いと決めつけるように洗脳されてる者なのです。

2) 人生への勘違い

もちろんお金があること、そして笑えること、それが哀れなことではありません。しかし、そういう状況のゆえに自分の人生、人生そのものに対して勘違いをしてしまうのです。先ほどの話とは逆に、人生ってすごいもの、良いものなんだねと思います。人生って幸せなもの、希望に溢れるものではないのか。そして、その中で私は成功した者ではないのか。努力すればどうにかなるものではないのかと、人生のことをそのように思うことになってしまう材料なのです。そこが問題なのです。

3) イエスがキリストなら(来られたなら)

しかし、イエスがキリストならば、キリストが来られたことに間違いなければ、人生はそういうものではありません。こういうことが明らかになります。

①ヨハネ8:44、エペソ2:1-3、ローマ3:23、ヘブル9:27、ヨハネ14:6、使徒4:12

あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであると、もう生まれながら身分そのものが滅びるしかない運命を抱えて生まれる者なのです。それが人間というものだし、自分の罪過と罪の中にあって死んでいた者であって、だから当然サタンに従うしかないし、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれるしかない。ひどくないですかと思うかもしれません、なぜそれがひどいと思われるかというと、その反対の話を悪魔から一生聞いてきたからです。実は人間とはこういう存在です。すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。最終的には人間には一度死ぬことと、死後にはさばきを受けることが定まっていると。永遠の滅びの方に入るしかありません。だから、神様はその

ようにならぬように人を愛してキリストを約束されました。この問題は努力によって富によって知識によって科学によって福祉によって解決できるものではありません。悪魔の頭を踏み碎いて罪を贖い、神と会うことができる道となられるキリストの他には救いの方法はありません。それでイエス様がこのようにおっしゃいました。わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとりとして父に会うことはできません。ペテロも言いました。世界中でこの御名、イエス・キリストのお名前のはかには救われるべき名として、どのような名も与えられていません。だからイエス・キリストを信じなさいと勧めるわけです。

②嗜み合わない、聞こえない

しかし、人生を幸いなもの、美しいもの、希望あるものと勘違いしているので、このようなお話が自分と嗜み合わないので。これが聞こえてこないのです。残念なのは教会まで来ているのにこれが聞こえない。

③イエス様を拒否する

そうするとイエス様を拒否することになります。2部礼拝でも申し上げますが、あるいはイエス様のことを勘違いすることになります。これが哀れなことになります。自分は幸せだと思っていたのに、それが結局イエス様を拒否する材料になります。もう一度言います。富を持つことが哀れではありません。学問があることが哀れではありません。家庭内が平和で家族団らん、それが哀れではありません。そんな非常識的な話ではありません。しかし、人間はそのようなことで自分は幸せ、人生って良いもんだと思うので、イエス・キリストが来られて、人間の実態と人生の真相を解き明かしてお話をしたときに聞く耳を持たないのです。それが哀れなのです。

4) 霊は死のまま、靈的乞食、肉の限界、永遠の結果

イエス様を拒否して結局は富があるかどうか関係なく、その人がどれほど成功したのかどうか関係なく、その人のたましいは死んだままの状態で靈的には乞食のような人生を送り、自分なりに成功を収めて誇りに思って自慢していた肉体的なものも限界を迎えることになります。聖書にはその一番良いの例え話としてルカ16:19-31、金持ちの話を通して私たちに教えられているのです。ものすごい富を手に入れて、自分のやりたいことを全部やれるような状況でした。毎日宴会を開くほど楽しい時間を過ごしていたかもしれません、それが限界なのです。しかもそのまま永遠の結果につながることになります。だから、哀れな者とイエス様はおっしゃいました。イエスがキリストに間違いなければ、キリストがこの世に来られることが間違いなければ、今までの幸いは哀れに変わってしまうということをぜひぜひ覚えてください。

なので、今日礼拝を捧げていらっしゃる皆さんは、この地上にあるもので、それが目に見えるか見えないか関係なく、人なのか環境なのか物なのか関係なく、その地上のもの、見える状況などによって幸せと不幸を判断する古いサタンのやぐらが碎かれるように祈りましょう。そして、ここでイエス様を信じて受け入れますと信じたクリスチヤンの方々は、自分の過去を振り返って哀れだと思われる自分の過去に対して、それがいじめだったかもしれません。親に捨てられたことかもしれません。人にはない病を患っていたかもしれません。障害を抱えて生まれてきたかもしれません。何かの事故にあったかもしれません。どのようなものでありその哀れだと思うしかない、それで我慢して何かで包んで隠していた、それが方法だと思っていた、あるいはそれを心の傷としてずっと残ってその人を動かすような、そういう哀れなことに対して幸いだと宣言し感謝しましょう。それができなければ、次はなかなか期待できません。サタンはずっとそれを引っ掛けて私たちを操るわけです。特に考えを。クリスチヤンとしてみことばに沿って神がともにおられることを前提にして、自分はもう死んだと考えないといけないのに、いつも自分の考えに振り回されるように。その自分の考えは何なのでしょうか。自分の考えではなくて、他の人の考えを考えるのでしょうか。よく考へてみてください。あまりに頑固的に自分の主張が強い人はよく考へないといけません。自分のこだわりがあまりにも強くて、これは絶対こうしなきや、ああしなきやいけないとこだわりの多い人は靈的な問題から自由になりません。何が正しいのでしょうか。それが本当に神がともにおられ神の考えに沿って考へたことでしょうか。そうでなければ誰の考えなのでしょうか。自分の考えでしょうか。自

分の考えはありません。悪魔、悪魔に操られる考え方なのです。だからクリスチヤンなのに癒されないのです。変わらないのです。みことばが入らないのです。考えないように。自分の考えは悪霊の考えだと断言するのが一番わかりやすいです。何を考えればいいのでしょうか。「神様、どう思っていらっしゃるのでしょうか。みことばではなんと言われているのでしょうか」。なかなか難しいでしょう。30年、50年ずっと自我によって生きてきたので。私は十字架とともに死んだと。キリストが生きていて、キリストを信じる信仰によって生きる者だ。だから自分の考えを捨てて、神の考えに少しでもこだわる人は必ず答えられます。それが信仰生活です。難しい聖書の言葉を全部暗記するような、そういうことではありません。過去の自分の哀れなことに対して、イエスがキリストであれば、キリストが来られたことが間違いなければ、それは私に対して人生が何かの悟りを与えられ、イエス・キリストに飛び込むような材料だったので幸いなものであり、感謝しないといけません。

そして、今の現実の前で、それがどんな現実であれ、御座の祝福で豊かに満たされるように祈りましょう。それを心がけましょう。現実がああだこうだ、悪い良い厳しいきつい、あんな人間がいるのか…とかではなくて、だからこそ私たちは満腹になるようになっているのです。逆に厳しい人間関係、人間関係というのはこの御座の祝福に満たされて、それを味わうために神様が許されたチャンスなのです。なのに自分の基準でこうすればいいのに、ああいう人間であればいいのに…こういうことばかり考えるでしょう。だから負けるのです。クリスチヤンは違います。満腹になるのです。地上のものではなくて、御座の祝福で、神の愛によって満腹になるように。それを 777 と言います。何が 7 ? という方がいらっしゃるでしょうかけれども隣の方に聞いてみてください。それが満腹になる食べ物です。クリスチヤンの過程なのです。

なぜ私たちはそのようなどん返しの福音の祝福を味わわないといけないかと言いますと、今現在も皆さんの周りには、不幸と悲しみ、絶望の中でそれが幸いだということを知らずにため息をしている人々がたくさんいるのです。そういう人々にどん返しの福音を伝えなくてはいけないのではないでしょうか。皆さんはそのために召されているし、そのためにどん返しの祝福を先に味わうようになります。だから皆さんに先に哀れなことが許されてきたわけです。それに 1mm も囚われたり引っかかったりすることがないように。心の傷として残していくはいけません。それは悪魔の餌なのです。いくら事実であれ心の傷として暗いものとして残っているものは悪魔の餌です。戦ってください。どん返しの福音の前でそれを握って戦って、本当に人は理解できないでしょうが人を生かす幸いな残りの生涯を歩いていきましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今まで私たちが勝手に幸い、あるいは哀れと思っていたそれが、キリストの福音の前で全部ひっくり返って逆転されるそのよう祝福をひとりひとりが体験し、味わうことができるようになります。豊かに祝福を与えてください。聖霊様が聞く耳を開いて聖書だけに語られているいのちの喜びの福音の知らせを正しく聞いて受け入れができるように働いてください。それで残りの生涯、何ものにも囚われることなく、また左右されることなく、心からの感謝をもって病んでいる人々を助ける、どん返しの福音を逆転の福音を伝えることができる証し人としてひとりひとりを整えて用いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。